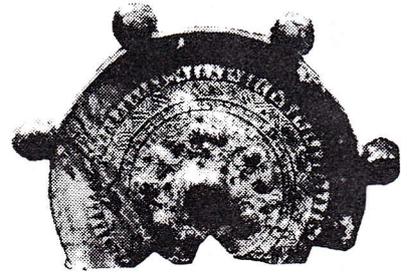


文化財 やまと

大和町文化財保護協会発行



七 鈴 五 獸 鏡

創立四〇周年

記念事業を生かそう

会長 佐藤 光 一

昭和五三年（一九七八）『大和村史料編』を発行したのが縁となつて、大和町は、同六二年東氏第二七代の後裔（こうえい）東胤駿（とうのたねたけ）氏と「東家所蔵歴史資料等貸借契約書」を交わした。

今回、創立四〇周年記念事業として、東家資料のデジタル化に取り組むことにした。スタッフは細川優、本川喜代士・清子夫妻、山田真人、佐藤光一の五人とし、必要な場合は助っ人をお願いした。

撮影は、ページめくり、無反射カラス係り、撮影の三人で当たった。各資料はまず最初のコマを撮影し、それをパソコンに取り出して、ピント・色彩などを確認した後撮影に取り掛かった。古今伝

のデジタル写真に撮った。これによって、貴重な原資料を手厚く保護し、かつ何時でも何処でも存分に資料を活用することが出来るようになった。製作は本会前会長故土松新逸さんの息子さんで、名古屋市でユニテックスポートという情報システムサービスを営んでいる土松伸夫さんに依頼した。技術的に安心して任せることのできる人物である。

さらに胤駿氏は、先祖が永年にわたり当地を領知していたことと、自宅に置くよりは、大和町が収蔵・管理した方がよいと判断して、平成六年一月五日大和町と「東氏歴史資料寄贈契約書」を交わし、東家資料は大和町が所有することとなった。

東家文書の主なものは料紙が上質な和紙「鳥の子」である。取り扱うには、白手袋を用いるべきなのだが、それでは煩わしくまた不便なので、手をよく洗って、取り掛かることにした。また、紙がとも薄く、文字が裏写りするので、袋綴じの間に

授之巻（一八、二枚×一、六〇三枚）のような巻物類は、左右に若干の余裕を持たせて撮影し、後で全部繋ぎあわせ、均一幅に切り揃えることにした。撮影の済んだものは、縦横の寸法を記録した。このようにして、東家資料全八二件、九〇点を三、八二〇枚

機会あるごとに、これを積極的に、町民の皆さんに見てもらい、この地に生きた先人たちが残してくれた貴重な文化財の意義を理解していただきたい。その上で、文化財展示館や現場を訪ねて、直に文化財に接し、文化財保護および活用の大変なことを実感してもらえよう真剣に努力したい。末筆ながら、この事業のためにご尽力くださった会員の皆さん、関係者の皆さんに厚くお礼申し上げます。

番号	作 品 名
1	姓家人名目録（かみまとのりどまきまろ）
2	東野州白旗御前（とうののしろのしらいひのぼり）
3	宗族家（そうぞか）
4	東家十三代書（とうけいじゅうさんだいしよ）
5	藤原公府日記（とうげんこうふにちぎ）
6	藤原公府日記（たのふたのふたのふたのふた）
7	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
8	菅原御前日記（すがわらごぜんにちぎ）
9	種徳御前日記（たねとくごぜんにちぎ）
10	古今伝抄（ここんでんしよ）
11	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
12	明治天皇御前日記（めいじてんのうごぜんにちぎ）
14	新古今和歌集（しんここんわかしゆ）
15	東野州御前（とうののしろのしらいひのぼり）
16	水鏡御前日記（みづかがみごぜんにちぎ）
17	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
18	和歌口伝（わかくぐた）
19	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
20	かりねのふた（かりねのふた）
21	二東家御前日記（にとうけいごぜんにちぎ）
22	古今集（ここんしゆ）
23	伝説御前日記（でんせごぜんにちぎ）
24	和歌御前日記（わかくごぜんにちぎ）
25	伊弉保御前（いさほごぜん）
26	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
27	和歌御前日記（わかくごぜんにちぎ）
28	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
29	かみまのふた（かみまのふた）
30	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
31	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
32	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
33	日光御前日記（ひかりごぜんにちぎ）
34	二條御前日記（にじょうごぜんにちぎ）
35	西園寺御前日記（さいおんじごぜんにちぎ）
36	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
37	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
38	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
39	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）
40	東家御前日記（とうけいごぜんにちぎ）

東家資料索引（部分）

本会は、平成七年度に少額ながら「重要史料出版等基金の積立」を始めた。それを基に、平成一三年、創立三〇周年記念事業として、平成七年に町教委が刊行した『大和町の文化財（図録）』を増補・改訂してデジタル化した。また、同一五年、大和町文化財収蔵展示館の開設を記念して、「大和町略年表」（九〇枚×九〇〇枚）を展示館へ寄贈した。

裏写りするので、袋綴じの間に

八二件、九〇点を三、八二〇枚

のデジタル写真に撮った。

発展と破壊と

石 神 堯 生

高速道路貫通

今から二〇年以上前の話である。私の出生地万場では、高速道路（東海北陸道）建設に関連して、その前段階でどこを通過するかが問題になった。本心を言えば、誰もが密かに自宅周辺を通過することを望んでいるようにもみえた。しかし大義名分は「高速道によって地域が発展する」ということである。

私自身も、一つの危惧を抱えながらも、道路がかかることによる金銭上の利点を、密かに望んでいた。ただ、母だけが道路によって失う家や土地、また住居の移転などを嫌い、「高速なんて来んでもええ」と独り言のように言っていた。自宅周辺の工事が始まると、「怖い」と言っ

一連の精神的ショックかどうかはわからない。

発展と破壊

そのことは別として、前記「一つの危惧を抱えながら」というのは、今まで何百年も続いてきた周囲の環境が、一変してしま

うのではないかという畏れである。発展と言いつつも、一方では破壊を助長している。いわゆるビルト アンド スクラップである。端的に言って、住み慣れたところが変わっていくことに対しては、長く住んだ人ほど抵抗が強い。それはノスタルジアという一言ですまされるほど単純ではない。私の地域は、道路も悪く閉鎖されたところだったから、地域こそって閉鎖性から脱却を望んでいたのだ。高速道路が地域を縦断することに何の抵抗もないどころか、拍手で迎えられたといってもよい。発展という観点で診ると、何

が発展であったのかよくわからない。地域の西側の、樹木が生い茂った山裾が明るくなって、高速道路を車が絶え間なく通るようになったのは、なにか都会に近づいたような気がして、地域は僻地のように見られなくなり、住民が気分的に少しハイになったことが発展なのだろうか。道路による経済的利潤は、今のところ何もない。ただし前述したように、立ち退きや土地の収用による補償費は、該当者にとっては高収入をもたらした、特に住居などは一変した。私の近辺では、十一軒の立ち退きがあり、住居跡やその周辺はすっかり変貌した。その距離は万場全体では三キロ近い。

失われた動植物

道路貫通で削られた部分はほとんど山裾で、いわゆる里山のところが多い。西山だから陰地が多く、一般的には樹林には向いていないように言われるが、どうしてどうしてこの地域はいたって植物の種類が豊富で、貴重な山草や野生の花があった。たとえば、拙宅の前の山は、今は写真のように陸橋になって

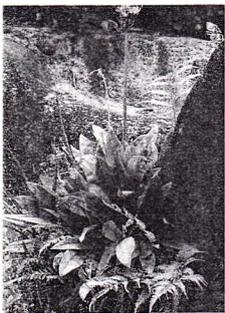


写真は、我が家の裏側が陸橋になっ

シユンランとヒメシヤガ



し、花ではヤマユリ、シユウジ ヨウバカマ、シユンラン、カタクリなどが咲いた。特にシユウジ ヨウバカマとシユンラン、カタクリは群生地があつて、本当は自然の花などを取つてはいけないのだが、どうせそこは削られて道路になるのだからと思つて、私は多少罪悪感を感じながらも、それらを取ってきて我が家の庭に記念として植えた。



シユウジ ヨウバカマ



ここには竹藪があり、孟宗竹と真竹が生い茂っていた。竹藪の中にはエビネなどがあった。



これも採集してきて、今は我が家の庭に咲いている。

小さな生物も結構居た。一番多かったのはカメムシ。家の立ち退きで一番喜んだことは、そのカメムシから逃れることができたことと、蛇やマムシからも遠ざかることができたことだった。

蛇はタンスに入っていたり、マムシは風呂の炊き口にいたり、日常的に怖いことがいっぱいあった。一方残念でかわいそうなこともある。我が家の裏と東の田んぼには、モリアオガエルが生息していた。裏の田んぼは道路に接収されて無くなったが、東の小さな田んぼは残り、モリアオガエルは、そこで細々と生蛙(?)をたてていた。しかし今年になって、私も高齢になり、小さな田んぼではあるが

耕作を放棄した。一つだけモリアオガエルのことが心配で可哀想であるが、自分自身にももう庇護するエネルギーがなくなっってしまった。「蛙ちゃん許して」今は雑草地になった田んぼを見て蛙に謝っている。

伝説と遺跡

我が家の裏に「上棚(うわだな)」と呼ばれていた山裾の畑があった。

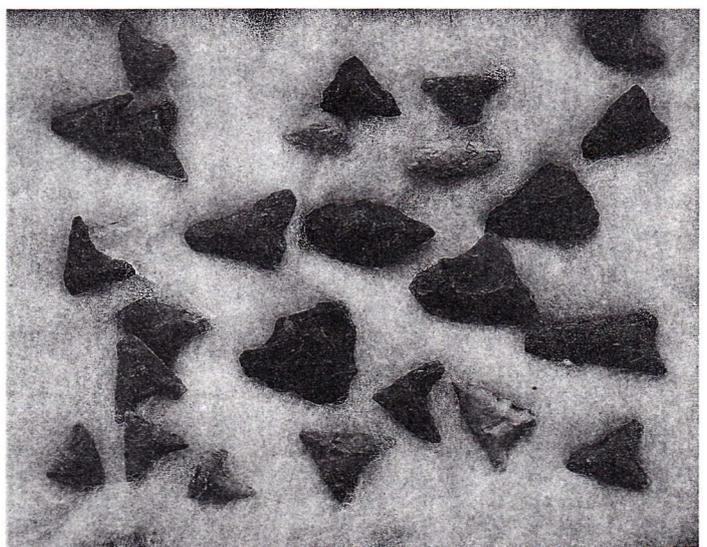
山畑にしては結構広いところで、南北に一〇〇メートル、東西に三〇メートルくらいあったろうか。そこはある個人の土地で、かなり昔に開墾されたものらしく、いくつかの畑に分かれており、何人かの人がそこを借



りていた。我が家も、すぐ裏のことで近いので、一部を借りて、野菜などを作っていた。

高速道路はその畑の真上を通ったので、畑はすっかり埋め尽くされて、今は昔の面影もない。かつての畑の東側を、舗装道路も通っている。この舗装道路の西側、(写真左側)に畑が広がっていたが、私はその畑について一つの思い出がある。

小学校の頃、その畑へ仕事に行ったとき、石の鍬らしいものを拾った。それ以後時々拾うようになって。といっても何ヶ月に一つぐらいではあるが、おもしろいことがわかった。それは、雨が降った後などに行くと、土が洗われていて新しいものを発見することができた。小学校の頃、私たちは大人の人から、「昔、阿千葉城の侍たちが、万場の方へ弓矢を放つて弓の練習をした。上棚に落ちとる鍬はその時のものや」と聞いていた。それで私は、拾った鍬がそういういわれのものであると、子供ながらに信じていたので、尊い宝物のようないふふとして、誰にも言わず、あのころからずっと六〇年以上、今でもそれを大事に持っている。



ないわけではない。赤保木から万場のまつば家までは、一キロ以上あるだろう。いくら強い弓でも、そんなに遠くへ飛んだものだろうか、ましてや我が家の裏にあった上棚までは二キロ以上あるだろう、鉄砲でも届きそうにない。もう一つの疑問は、阿千葉城の侍たちは、あのころはまだ石の鍬を使っていただろうか。

写真の石粒は、これが鍬であるのかどうか知らないが、この辺にはない種類の石である。また、昔大人から聞いていた「こは阿千葉城の侍の弓的(まこと)であった」というのも、ほんとうかどうかは知らない。そういういえば中万場には、「まつば」という屋号の家がある。ここも昔聞いた話では「まつば」というのは、赤保木(阿千葉城の別称として使う)から、弓を打つときの的場(まつば)や「つた」ということである。ただ、この話に対する疑問も

か、というような疑問である。私は大和町史の編集委員をやらせて頂いたとき、同じく町史研究家の第一人者畑中浄園先生と、万場の各家を回りながら、いろいろの民俗的なことについてお聞きした。その時、この的場のことも話題にはなつたが、結局判断とはしなかつた。あまり詮索するよりも、伝説のまま残しておくのが、ロマンがあつて面白いかもしれない。

京都

秋の特別拝観の旅

本 川 喜代士

日本国内では、二五年前に、沖繩で観測されて以来とか。名

地に、その感を強くさせられまし

古屋を中心と、東京・大阪と広い地域にわたると、何と一〇八〇年前の平安時代以来とかになつてしまつとか、とにかく日本中が金環食ブームに巻き込まれましたが、ここ大和では何人の人が金環食を見たのでしょうか？。

そんな時、昨年の秋の日帰り旅行は私の担当と言われ、慌てて当時の資料を探し出し、急遽、纏めたものです。

昨年は私の生涯を共にした無二の親友の、壮絶な最後を見届け、極めてブルーな時期でした。

例によって人数の集まりが悪く、旅行が成立するのかもしれない。最後は風邪での辞退者もでて、毎回何事もなく参加できることがいかに幸せなことなのか、シミジミ思われました。

出発のバスに乗車して、旅行パンフレットの参加者名簿、車の中の顔ぶれを確認して、明らかに九〇歳前後のメンバーが、減っている

は、安土桃山時代に狩野派の棟領として活躍した、狩野光信の面目躍如たるものでした。

この旅行で、一番驚かされたのは、昼食の時でした。

話は飛びますが、私共が結婚したのは、約五十年前の十一月三日、東京お茶の水の神田明神で式を挙げ、東京駅を夜行で発ち、京都乗り換えで亀山に飛び、保津川下りと洒落こみました。

舟が着いたのは、嵐山渡月橋。橋のたもとには、時代的な和式の電話ボックス。それにマッチした様な古い門のある「松嵐居」と呼ばれた格式のある旅荘。私どもの思い出の旅館でした。

平成の現代、そんな建物は跡形もなく消え、食べ物屋と土産店に変身、昼食時の観光バスの操車場に変貌しておりました。隔世の感とは、こんなことを、言うのでしょうか？。

この後に大変なことが待つておりました。

渡月橋を北に向かつてトロッコ電車の踏切まで、嵯峨野巡りの入り口になるあたりですが、歌手や有名人の店が点在する若者の街を、多くの人達が歩いておりました。私達はこの混雑の中を、お寺を探して、往復約一キロばかりの道を、思いつきり歩か

せてしまつたのです。

時間が迫つた中でやつと見つけ、弘源寺の本堂での刀傷や、宝蔵院の遊式庭園をサート見て来ました。歩き疲れて、バスに座つた時の座席がいかに嬉しかった事、生ぬるいペットボトルのお茶がいかに美味しかったことか？



宝蔵院にて

最後は銀閣寺、この近くにNTTの保養所があり何度も行った所などでお馴染みの場所、「金閣寺とどちらが良いか」とよく対比されますが、秀吉好みの豪華さよりも簡素な美に包まれた銀閣のほうが断然好み。この寺を法然院に向かう疎水縁の哲学の道、その道をぶらぶら歩くのが如何にも京都を歩くと言う感じがして、私の大好きな場所でした。ですが最近では観光化が激しく静かさが減った気がします。

銀閣寺の素敵な所、それは先ず入り口でしょう。

左右、四、五メートルの幅で総門から中門まで約五〇メートルの参道、銀閣寺垣と呼ばれる高さ約六メートルの竹垣で囲まれた細長い空間は、現代に生きる我々と、浄土世界へつなぐプロローグであると銀閣寺の説明書にあります。そして中に入ると真っ白い砂の造形芸術、銀沙灘と向月台。今回は、それが主ではありませんでした。

通常は公開していない建物内部、本堂の方丈、書院、香席、檜皮葺きの現存する最古の書院、東求堂（国宝）。そういったものの公開でした。本堂の襖絵、与謝蕪村、池大雅、富岡鉄斎、そういった方々の絵は、銀閣寺には相応しい

は、安土桃山時代に狩野派の棟領として活躍した、狩野光信の面目躍如たるものでした。

ものでした。ところが本堂の香堂の、弄清亭(ろうせいせい)の襖絵は奥田元宋でした。

約一〇年前、水戸の美術館で催された遺作展で始めてこの奥田元宋の絵を知ったのですが、白い馬が映える「緑」で知られている東山魁夷ほどではなくても、元宋の「赤」は魅力的です。翌年、富山に移された元宋展を追っかけ、富山県立近代美術館の丸い大きな室の中で飽かずに眺めさせて頂いたものです。その元宋さんの絵が銀閣寺の遺産になっていたのです。

二本の山桜の脇を山の清流が静かに流れていく、ここには元宋の赤はありませんでしたが、素晴らしい絵でした。三年の歳月をかけた作品だそうでした。

これで昨年の京都拝観記は終わりです。

この後、翌年、一泊の研修旅行が計画され、参加定員に至らず中止になってしまいました。そして滝日一正さんは研修部長を辞められました。従って滝日さんとは最後の旅行になってしまったのです。滝日さんは前任の準一さんの体調が悪くなられた際に代わられ、色々な所へ連れて行って頂きました。小浜、京都、奈良、徳島、白浜、和歌山、吉野。



銀閣寺にて

初めて四国に渡った徳島では、(この時は山田さんの力も大きかった) 鳴門の橋の上で足が竦んだ記憶が強烈ですが、この時の宴会の二次会で一正さんに、カラオケに挑戦、私の相手ではないと一目おかせられました。百人ほどの会員も体調のよくない方が多く、人集めには苦労されたと聞きます。私も影ながら、八幡の知人や会員外の人にあたってみただけですが、結果が出ず何の力にもなれませんでした。

一正さんご苦労さまでした。本当にお世話になりました。

最後にもう一度金環食。黄金の鎖といわれるベイリー・ビーズの観測で太陽の大きさが詳しくなったとか。東京では、世界一の高さとかのスカイツリーがオープン。大賑わいです。さて次の金環食は十八年後に北海道で

見られるそうです。東京の空は一度は経験したいですが、北海道には首をひねってしまいます。よう？

御頭人

西本願寺御正忌報恩講

斉藤 武生

「御頭人(おとーにん)」、「御頭人(おとーにん)」「静寂の西本願寺御影堂に呼び声が響きます。毎年一月九日から十六日まで、西本願寺で最も大きな行事であります御正忌報恩講が執り

で行事鐘の鐘が本願寺の境内に響き渡る中、同行の代表九人が白装束に九ヶ紋入りの袴をつけ、御真影の前「矢来」(柵で仕切つてある所)の内まで進み出て、本山の坊様数十人の助音をいただきながら、厳かに九ヶ村同行の勤行が始まります。

今回はなぜ本願寺において、このような尊い任ができるのかをお話します。

本願寺と織田信長が戦った石山合戦の折、顕如上人が紀州鷲の森へ落ち延びられました。九ヶ村同行(神路・大間見・為真村)《三ヶ村、美濃》(荷暮・下半原・大谷・久沢・下伊勢・上秋生村)《六ヶ村、越前》の



御頭人の同行



矢来の中の同行

門徒達が栗・稗・真綿等を持って、戦のさなか身を懸けて遠き紀州鷲の森までお見舞いに行つたのです。顕如上人はそれを中心から喜ばれ、その功により御正忌報恩講の折、一般の人は入ることができない「矢来」の内御頭人の勤行を勤め、昼には国宝の「鴻之間」の上座にてお斎につくことができます。

私は父から九ヶ村同行の話を聞いて関心を持つていました。が、昨年からは門徒諸先輩のご厚意のもとに、何百年も欠くことなく続いている歴史であるこの尊い行事に同行させていただいております。

わが家の秘仏

細川 優

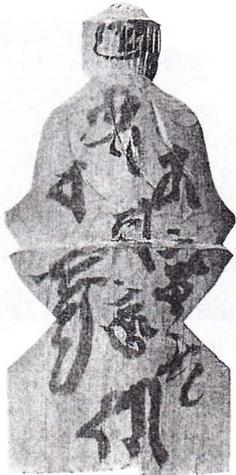
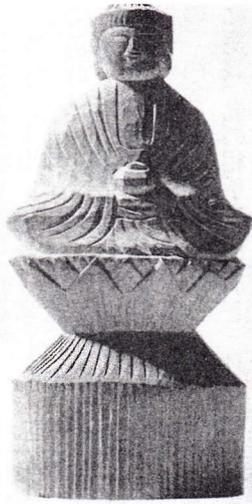
これはわが家に伝わる仏像の昔話である。それは祖父達兄弟の若い頃で、この仏像もおもちゃ代わりになっていたようで、御開山の阿弥陀仏にへそがあるなどとはやして遊んだそうだ。

阿弥陀仏のへそというのは、この仏は薬師如来なので、中央に薬壺を持っておられるので、それをへそと言ったようだ。兄弟達は夜、自分たちの手がすぐく日照り一晩中寝ることができなかったそうだ。また、四つ足動物の肉を食することは固く禁じられていたが、つい食してしまい、朝目がさめたら外で寝ていたなど、現代ではお伽噺のような話を聞かされた。また、こんな話もある。前の話とはだいぶ時が流れた頃だが、祖父の夢枕にこの仏が現れて火災を告げられた。びっくりして飛び起きるとコタツから煙が上がっていた。早速消し止め、事なきを得たという。そんなこんなで昔から皆に尊ばれていたが、その頃

から薬師如来と分かっていたようだ。他所へ嫁がれた近所のおばさん達がお盆や正月などで実家に戻られた時は、良くわが家のお薬師をお参りに来られたものだった。その人達も今は亡くならぬ、時が知らず知らず過ぎ去って行ったことが懐かしく思

い出されてくる。わが家の秘仏として、これまで色々の面で関わりがあった仏だが平成に入り大和町に文化財保護協会が結成された。ある時、保護協会の会長さんである土松新逸さんと八幡町の佐藤とき子先生が仏像の調査に来られた。わが家の仏像は鑑定の結果、円空作の薬師如来座像で、初期の作品であることが解った、その後、大和町重要文化財の指定書が送付された。

平成四年一〇月二〇日が交付年月日である。これにより、円空仏として日の目を見ることになり、多くの文化財保護協会の会員の皆様が参観もされて現在に至っている次第ですが、秘仏であることは変わりありませんので、よろしく願います。終わりになりますが文化財を愛する会員が一人でも多く止みません。



文化財保護活動にぜひご参加ください

～あなたのご入会とお力添えを挙ってお待ちしております～

本誌「文化財やまと」第37号所載の会員名簿にあります理事・役員までお申し出ください。年会費2,000円（家族会員は1,000円）を収めていただければ、いつでも入会できます。

大和町文化財保護協会の活動

大和町には、郡上市内で、人が使った最古の石器「落部中屋出土有舌尖頭器（おちべなかやしゅつど・ゆうぜつせんとうき）」をはじめ、「福田古墳・丸山古墳の出土品」そのほか、市内のほかの地区にはないものを含む貴重な文化財が134件あります。

これは、大和町文化財保護協会が昭和56年7月創設以来40年間、地道に、一度失われたら取り戻せない、先人たちの残した貴重な文化財を発掘し、保護し、後世に伝えるために努力してきた成果だと自負しております。

文芸欄

短歌

新玉をまつ

井 俣 初 枝

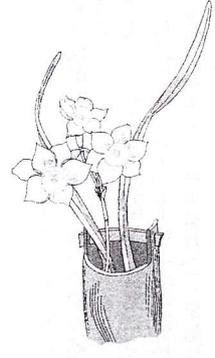
対岸の傾りに咲ける山吹の雨にけぶりて
滝のごと見ゆ

黙し咲き黙し散りゆく花の声永久に忘れ
じわれが花苑

ツリーののごと青葉の中に赤々と一日の
はげみミニトマト喰う

虫喰いの混じりつややか栗の毬ばあつと
口開けはち切れた秋

越前の水仙たまはり卓上に静かにおかれ
新玉をまつ



母の白髪

大野 紀子

エンドレステープのやうな母の向ひくり
かえすなかたんばばも咲く

母よ母仕立ててくれし着物です小さき花
咲き紫匂ふ

病む母の笑顔みるとき吾もまたぎこちな
けれど作り笑ひす

眺に涙にじませ母眠り風にまかせて植
の葉の散る

いつかくる列れのときを思ひをり母の白
髪まぶしく光る

俳句

菜種梅雨

寛 明 代

身二つに折りて尺蠖枝となり
母と娘の傘のあとさき菜種梅雨
凶作か辛夷の花の咲くをみず

何気なき一言うれし母の日の
略礼の茶席に憩ふ若菜風

芍薬

三 輪 孝 子

芍薬の芽ぐみあざやか朱筆めく
山吹きを重ねて罇のかえす谷
一番星花とど眠むる福寿草
風よりも先に落花の舞ふ陽射し

彼岸の会

遠 藤 富 喜 子

みちのくの巢立ちの誓ひ海に向き
鎮魂や区民寄り合い彼岸の会
棕櫚の花散り敷き母の鮫小紋
峡霽れて花種をかう声が寄る
時が消すあやめかさつの父母の畦



事業報告書

四月二〇日(水) 第一回郡上市文化財保護協議会理事会(二三年度諸計画)
一三日(土) 第一回執行部会(新年度への取り組み)、平成二二年度会務・決算報告について、

五月一六日(月)

六月一四日(火)
二二日(水)

- ① 平成二二年度会務・決算報告、監査報告
② 役員改選
③ 平成二三年度事業・予算の承認
④ 四〇周年記念事業について
⑤ 会員の拡大について

会報「文化財やまと」発行(発行部数四〇〇部)
講話:佐藤 光一 会長
題目:「郡上藩主金森頼錦の末路」

七月三日(日) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃(剣上地区参加)
八月 七日(日) 七日祭・新能
二四日(水) 第二回執行部会
九月 二日(金) 第二回役員会(秋季日帰り研修、郡上市協議会諸行事への参加について)
二〇日(火) 研修部会(秋季日帰り研修について)
二七日(水) 郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」大河ドラマ「江・姫たちの戦国」を訪ねて(本会からの参加者五名)
一〇月 五日(火) 第三回役員会
① 平成二二年度秋季日帰り研修の計画・実施について
② その他

二五日(火) 郡上市文化財保護協議会市内文化財めぐり「高鷲町開拓関係の資料展、等」見学(本会からの参加者一八名)

一二月 一日(金) 秋季日帰り研修(京都銀閣寺ほか、参加者一九名)
二二日(水) 第三回執行部会
四日(日) 第四回役員会、事業・会計中間報告、記念事業発表会の持ち方について、引き続き懇親会
二月一〇日(木) 研修部会(平成二四年度春期一泊研修計画)
三月 八日(火) 第五回役員会(平成二四年度春期一泊研修、新年度の諸計画について)
一三日(火) 郡上市文化財保護協議会第二回理事会
三一日(土) 東家資料デジタル写真撮影終了、本日まで一五日従事、全八二件、九〇点、三八二〇カット撮影。

事業計画(案)

四月十六日(月) 一七日(火) 春季一泊研修(伊豆方面)中止
二六日(木) 第一回郡上市文化財保護協議会理事会(二四年度諸計画)
五月一六日(水) 第一回執行部会(新年度への取り組み)、平成二三年度会務・決算報告について、

六月 五日(火)

六月 二二日(火)
二〇日(水)

- ① 平成二三年度会務・決算報告、監査報告
② 平成二四年度事業・予算の承認
③ 四〇周年記念事業報告
④ 会員の拡大について

会報「文化財やまと」発行(発行部数三〇〇部)
◎ 引続き一四〇周年記念事業の成果発表(佐藤光一 会長)
第二回役員会(郡上市文化財保護協議会諸行事への参加について)
市内文化財めぐり(石徹白地区、担当白鳥町)
東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃(剣上地区参加)
七日祭・新能

八月 七日(火) 七日祭・新能
二四日(金) 第二回執行部会
九月 二日(金) 郡上市文化財保護協議会「文化財探訪の旅(京都国立近代美術館と世界遺産・東寺、弘法市)」
二五日(火) 研修部会(秋季日帰り研修について)
一〇月 五日(火) 第三回役員会
① 平成二二年度秋季日帰り研修の計画・実施について
② その他

二二日(水) 第四回役員会、事業・会計中間報告、記念事業発表会の持ち方について、引き続き懇親会
二月一〇日(木) 研修部会(平成二五年度春期一泊研修計画)
三月 八日(火) 第五回役員会(平成二五年度春期一泊研修、役員改選・新年度の諸計画について)
以下未定

郡上市文化財保護協議会第二回理事会
同第三回理事会
秋季日帰り研修

会 員 名 簿 (順不同)

平成 24 年 6 月現在

■ 剣	
山下 暹 平 (顧問) 88-2406	
簾 勝 美 (顧問) 88-2031	
日置 敏 明 (顧問) 88-2254	
村瀬 喜 八 88-2128	
加藤 正 恵 88-2107	
加藤 文 蔵 88-2802	
佐藤 光 一 (会長) 88-3201	
佐藤 八重子 88-3201	
田中 和 久 88-2200	
田中 康 久 88-2200	
高橋 義 一 88-3792	
河合 亘 (理事) 88-2358	
河合 尚 88-2304	
加藤 小 弑 88-2329	
森前 とし子 (理事) 88-3479	
岩崎 扶美子 88-3521	
河合 利 雄 (副会長) 88-3520	
河合 美弥子 88-3520	
山内 博 88-3886	
山内 悦 子 88-3886	
村瀬 方 彦 88-2008	
小池 祐 二 88-4064	
小池 圭 子 88-4064	
林 千 里 88-3333	
佐藤 公 子 88-2161	
山下 妙 子 88-2405	
山田 ひとみ 88-2736	
日置 智 夫 88-2730	
■大間見	
村井 正 蔵 88-2323	
大野 一 道 (理事) 88-2230	
大野 紀 子 88-2230	
野田 英 志 88-2285	
清水 一 作 88-3086	
池田 光 彦 (理事) 88-3090	
小野江 勉 88-2725	
松井 賢 雄 (理事) 88-3991	
藤代 順 行 88-3060	
青木 ユリ子 88-3477	
坪井 由佳子 88-3990	
■万 場	
畑中 真 澄 88-2441	
石神 堯 生 (理事) 88-2413	
稲葉 和 巳 88-2503	

笥 伸 雄 88-2532	
笥 明 代 88-2532	
黒岩 弘 美 88-2458	
井俣 初 枝 88-2758	
青地 正 男 88-2447	
大井 正 明 (理事) 88-2894	
大中 峯 雄 88-2860	
大中 素 子 88-2860	
簾 清 子 (理事) 88-4170	
大井 ともゑ 88-2893	
桑田 守 夫 88-2514	
小倉 義 明 88-3224	
小倉 津由子 88-3224	
桑田 洋 一 88-2414	
大中 登志枝 88-3624	
大中 素 子 88-2860	
■徳 永	
水野 志づ子 88-2610	
山内 孝 一 (理事) 88-2616	
遠藤 賢 逸 88-2121	
遠藤 富貴子 (理事) 88-2121	
渡辺 千 恵 88-3280	
村瀬 弥治郎 88-2602	
渡辺 睦 子 88-2076	
山内 豊 子 88-2097	
畑中 文 枝 88-2382	
奥村 江美子 88-2186	
大坪 成 子 88-2775	
■河 辺	
鷺見 長 子 88-2028	
前田 鈴 88-3666	
■神 路	
白田 浄 円 88-3461	
羽生 清 88-2271	
山田 眞 人 (会計) 88-2114	
山田 正 代 88-2114	
山田 健 88-2689	
山田 味代子 88-2844	
山田 敬 子 88-2336	
白田 欣 市 88-3883	
白田 路 子 88-3883	
■ 牧	
金子 政 子 88-3426	
滝日 準 一 (監事) 88-2705	
粟飯原 明 子 88-2362	

日置 貞 一 88-2662	
遠藤 千鶴子 88-3637	
遠藤 高 真 88-2890	
滝日 敬 子 88-3406	
田口 勇 治 (副会長) 88-3950	
加藤 一 男 88-2870	
野田 嘉 明 88-3043	
尾藤 佐紀子 88-2353	
早瀬 ふみ子 88-3327	
日置 清 子 88-3636	
斉藤 武 生 (理事) 88-3922	
滝日 一 正 88-3064	
日置 康 夫 88-3788	
金子 徳 彦 88-3063	
松森 幹 男 88-3919	
三浦 泰 治 88-9080	
瀧日 千代美 88-3059	
遠藤 伝 司 88-3934	
日置 光 一 88-3001	
■栗 巢	
島崎 増 造 (監事) 88-2236	
増田 洋 子 88-4041	
笥 政之助 (理事) 88-4031	
野田 恵 光 88-4027	
■古 道	
細川 優 (理事) 88-2861	
清水 克 巳 88-2862	
野口 喜代子 88-3084	
遠藤 弘 隆 88-3976	
■名皿部	
有代 眞 一 (理事) 88-3791	
森下 正 則 88-3413	
佐尾 チドリ (理事) 88-3544	
■ 島	
森藤 雅 毅 (理事) 88-2684	
奥田 弘 親 88-2431	
山田 長 次 88-3648	
田中 篤 88-2792	
奥田 昌 明 88-2520	
奥田 清 子 88-2520	
本川 喜代士 (書記) 88-3833	
本川 清 子 88-3833	
森 憲 司 (理事) 88-2554	

◆◆◆ 平成23年度 決算報告書 ◆◆◆

(収入の部)

(単位：円)

項 目	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	3,960	
会 費	199,000	
会 員 会 費	199,000	正会員2,000円×94名 家族会員1,000円×11名
助 成 金	81,000	郡上市
40周年記念事業費	270,000	
役員会会費	14,000	
雑 収 入	2,100	
利 息	9	貯金利息
合 計	570,069	

(支出の部)

(単位：円)

項 目	決 算 額	摘 要
会 議 費	43,747	
総 会 費	9,000	資料費 印刷費 冷房費など
会 議 費	34,747	資料費 印刷費 役員研修費
事 業 費	444,408	
会 報 発 行 費	102,900	400部
奉 仕 活 動 費	22,100	傷害保険 など
デ ジ タ ル 化 費	270,000	技術料
デ ジ タ ル 化 作 業	43,792	東家文書デジタル化作業
郡 上 市 文 化 財 研 修 費	1,872	高鷲町開拓団の歴史研修
1 日 研 修 助 成	3,744	
事 務 局 費	80,850	
消 耗 品 費	18,870	コピー 印刷用紙 印刷費 記録メディアなど
通 信 費	11,980	ハガキ 切手など
会 費 負 担 金	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
合 計	569,005	

◆◆◆ 平成24年度 予算(案) ◆◆◆

(収入の部)

(単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
前年度繰越金	1,064	
会 費	211,000	
会 員 会 費	211,000	正会員2,000円×98名 家族会員1,000円×15名
助 成 金	81,000	郡上市より
40周年記念事業費	50,000	
雑 収 入	836	
合 計	343,900	

(支出の部)

(単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	45,000	
総 会 費	25,000	講師謝礼 他
会 議 費	20,000	理事会 役員会
事 業 費	205,000	
会 報 発 行 費	90,000	300部
奉 仕 活 動 費	20,000	文化財清掃奉仕作業 傷害保険等
研 修 旅 行 費	15,000	
文 化 財 研 修	30,000	
40周年記念事業費	5,000	
事 務 局 費	40,000	
消 耗 品 費	20,000	プリンタインク 印刷用用紙 他
通 信 費	20,000	通信用はがき 他
会 費 (県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
予 備 費	3,900	
合 計	343,900	

収入 570,069 - 支出 569,005 = 1,064円
(1,064円は平成24年度へ繰り越し)

平成23年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成24年 6月 5日

監事 島崎増造



滝日準一



編集後記

十数年前、メキシコ市から一八〇kmほど内陸へ入った人口約四〇万人のタスコ市を訪れた。スペイン統治下、銀の産出地として有名であり、現在は銀細工製品で知られている。市の幹部との最初の懇談の時「あなたたちは何を学びに当地へ来たのか」と聞かれた。先進国の一員であるわが国とは比較にならないこの地での問いかけの衝撃は強烈であった。この答え探しが私の滞在中の課題になり、今なお続いている。結論からいうと、私たちが失いつつある人間としての原点が今なお残っていると、言うことである。階級社会で貧富の差が激しい現実にあつて、革命記念日にはバラック小屋を含めて全ての家々にはメキシコ国旗がはためき、子供達は時間があれば家計を助けるためにひたすら働いていた。そのため、学校は午前、午後、夜間の三部制であった。すり減った黒板、薄暗い教室でも子供達は明るく学習していた。山道でロバに乗った親子も印象的であった。ブータン王国の国民の幸福度は世界でもトップレベルと聞いて考えこんだ。(ま)